

# 未来に繋ぐ<sup>つな</sup>ぐみのかもの70年

第23回

## 太田宿の活性化と中山道会館オープン

問 みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム ☎28-11110

かつて中山道の要衝であった太田宿周辺は、この一帯の商業や文化の中心地として発展し、地方都市の礎を築いてきました。その歴史を守り、往時の賑わいを取り戻そうと、1982年2月、街道沿いの若手商店主らによって結成されたのが「中山道若衆会」です。折しも翌年、豪雨災害によって町全体が大きな打撃を受けますが、木灯籠の設置や中山道まつりでの道中行列の再現といった多彩なアイデアを次々と打ち出し、まちは徐々に活気を帯びてきました。

その後も若衆会を中心に、1987年には中山道が通る県下の市町村によ



▲「広報みのかも」特集「甦れ！中山道」(1987年7月1日)

る「美濃中山道連合」や、全国の宿場町が集う「中山道宿場会議」など、美濃加茂市を会場とした事業を次々と成功させ、市域を越えた交流を生み出します。一方、1992年には中山道コミュニティ実行委員会が設置され、「ふれあい風土舎」や「宿の市」といった活動は、各地の商店街活性化の動きを先取りするものとなりました。

こうした流れの中で、太田宿の中心部に地域活性化の核を設けようと、旧ライン温泉跡地に「中山道歴史資料館」の建設が目指されます。1993年には、市民約5,000人の署名を添えて、市長への陳情が行われました。市では中山道太田宿活性化検討委員会を設け、関連団体との協議を重ね、第3次・第4次総合計画に施設建設が盛り込まれます。具体的なコンセプト設計や運営計画は、地域住民との話し合いを通じて検討されたよう、官民一体となったまちづくりが着実に進行して



▲「平成中山道太田宿かわらばん」建設計画編(2004年11月26日)

いきました。

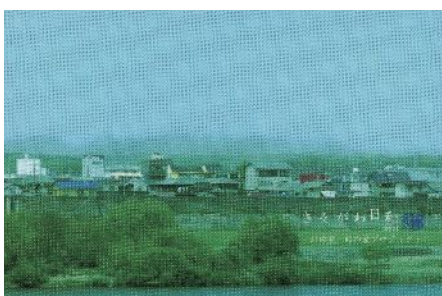
2006年4月には、中山道若衆会、草鞋の会、中山道発展会によるNPO法人「宿木」を運営母体として、太田宿中山道会館がついにオープンを迎えます。展示室や物産販売場、飲食店などを備えた館内は、「観光・文化・交流」をテーマに構成され、地域振興の拠点として幅広く活用されていきました。

まちの人々の思いによって紡がれてきた太田宿の風情や魅力は、現在も多くの人々をこの地へと引きつけています。そこで生まれる交流が新たなつながりを生み、さらなる地域発展の原動力となっているでしょう。

### Pick Up

### 「きそがわ日和」

2010年4月、中山道太田宿の町家を活用したアートイベント「きそがわ日和」が市民団体によって開催され、その活動は翌年から「川の家、町の家プロジェクト」などへと本格化し、あまり観光地化されていない宿場の建物や風情を生かした木曾川の流れとともに心地よい空間を楽しめるアートプログラムが展開されています。木曾川と太田宿の潜在的な力や魅力を掘り起こすこの活動は、大きな刺激となり、現在もさまざまな動きへとつながっています。



▲「きそがわ日和」記録集(2011年)